

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1174501153		
法人名	有限会社いなすず		
事業所名	グループホームいなすず		
所在地	埼玉県熊谷市道ヶ谷戸238		
自己評価作成日	平成22年3月10日	評価結果市町村受理日	平成22年5月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1174501153&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ユーズキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市宮前町2-241		
訪問調査日	平成22年4月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・恵まれた環境の中、お天気の良い日には毎日のように散歩に出掛けています。</p> <p>・住み慣れた場所での生活を継続する様、身近なスーパーへ出掛けたり、また行きなれた食堂やレストランでの外食を楽しんでいます。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>周りの田畑で栽培されている野菜や穀物で四季の移り変わりが分かるような場所に建てられたホームである。午前中は殆ど毎日散歩に出掛け、近所に咲いている草花等を頂いて帰っている。農家の方が持ってきて下さる野菜を使ったメニューが、健康面に配慮された献立の他に加わることもある。食事は好評で、お替りする入居者もいる。様々な話題で会話が弾み、雰囲気が良い。職員の退職がなく、受入れた研修生が勤務を希望し、職員の空き待ちとなっている。職員の得意分野を生かした対応が行われ、入居者・職員にとって、理想的なホーム運営が行われている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	三つの理念を踏まえ、ご利用者様の立場、ペースに合わせ、あせらずゆっくりとした生活の中から笑顔が引き出されるよう、対応しています。	開設当初に作られた「のんきに・ようきに・ほがらかに」という分かりやすい理念に基づき、入居者に平等に接している。カンファレンスや月一回の職員会議では、理念に添ったケアが実践されているか確認し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の小学校とお互いのイベント等で交流を持ち、また地域の方がボランティアに参加して下さっている。	地域のゴミ当番や下水道の掃除にはホーム長が参加している。地域の運動会や文化祭に参加したり、地元小学校の総合学習の一環で2・3年生を受入れている。ホームで行う夏祭りには地域の方を招待し、地域の一員として交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族会の方々の見学や電話での相談など、随時受け入れをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	三から四か月に一回の割合で行っている。ホームに対するボランティアや見学を通し、関心が見られ始めている。	地域の多方面の方に参加して頂き開催している。ホームの現状報告や災害時の協力、傾聴ボランティア等の依頼を行っている。自己評価や外部評価を活用しての話し合いまでには至っていない。	今後は自己評価や外部評価について報告し、課題についての意見や要望等を頂くよう努め、その話し合いがサービス向上に活かされることが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	御家族からの相談などで分からないこと、ホームとしてできることがあるかなど、広域の方に伺うなどしている。	空き情報の報告、医療行為に関する相談、入所時の相談等の為、積極的に訪問している。又、電話相談にて指導を仰ぐ等、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯のみ玄関の施錠を行っている。	身体拘束をしないケアについて、全職員が理解し、取り組んでいる。玄関の施錠も行っていない。徘徊癖のある入居者には、職員と一緒に歩いたり、ドライブしたり、場面を変えながら対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が常に「してはいけない」と心がけ、介護にあたっている。また、テレビや新聞などで気になることは話題に上げ、話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や勉強会に参加したり、地域包括の担当者と連絡を取り合うなどしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人様やご家族様に何度でも見学に来ていただき、また話し合いも十分な時間をかけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。また、面会に来られた時など、声かけをし、お話を伺うよう心がけている。	日常生活の中で入居者から意見等を頂くようにしている。、家族には訪問時に声掛けをして、要望や意見等を頂き、月例会や朝礼等で話し合い、すぐに解決出来るものについては実行する等、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度職員会議を行っている。	管理者は職員と休憩時間を一緒に取る様にして、その時に意見を聞いたり、職務中いつでも話してもらえるよう配慮し、それらを運営に反映している。大きな問題がある場合は、職員会議で話合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の苦情や意見について積極的に聞くようにし、職員が楽しく働けるよう、改善できるところは改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルに合った研修の情報を提供し、参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括支援センターを通し、他のグループホーム同士での勉強会、情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時は不安、戸惑いが見受けられるため、職員からの声かけを行い、少しずつホームの生活に慣れていただいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	毎月ご家族へ近況報告書を提出している。また、電話などでの連絡を取り合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応の見極めが難しく、ご利用者様にはホームでの生活に慣れていただけるよう支援していき、相談に応じられない場合は、他の施設を紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物や食事の配膳などを通じて、ご利用者様と職員が共有する時間を設けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事ごとの時に家族にも声かけし、参加していただくことで共有する時間を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や買い物を通じて、馴染みの場所に出かけるようにしている。	行きつけのスーパーや公園、ドライブ等によく出掛けている。お彼岸には家族とお墓参りもしている。家族のいない入居者の場合は、職員が支援している。又、友達の訪問も多く、居室やロビーで世間話等をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の性格や人間関係などから、テーブル席の配置や時には居室の移動なども考慮し、孤立のないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した後もお手紙や時には電話をし、様子を伺うようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアカンファレンスをもとに、ご本人の希望を重視し、職員会議で意見を出し合い、必要に応じた対応をしている。	職員は入居者に合わせたアプローチを心掛け、わかりやすく丁寧な声掛けをして、思いや意向の把握に努めている。又、把握が困難な方の場合は、行動や表情、又、家族の情報等から把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族からの情報やご本人からの会話を通し、病院、理容、日常生活の過ごし方を知り、支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の対話や起床時の様子、バイタルチェックなどを行い、心身の状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様の日常生活の中からご本人の意向を把握し、また、ご家族が面会に来られた時、お話を伺うことで、希望に沿った計画を作成している。	日常的な支援の中から入居者の意向を把握し、担当者と話合いを行い、家族が訪問した時に意見を聞く等して介護計画を作成している。特別な変化がある場合は、家族に来てもらい一緒に考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に時間系列で特記事項を中心に日々の様子を具体的に記入し、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院受診介助や外泊など、ご利用者様とご家族の状況や希望に応じた支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の消防団との交流を持つようになっている。また、小学校の行事などにも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医に通院したいと言う気持ちを大切に、継続している。また、通院が難しい方に対しては、往診をお願いしている。	入居以前のかかりつけ医や事業所の協力医に、家族や職員が支援して受診している。変化のあった場合は、家族と相談しながら受診している。受診結果は共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に看護師が訪問し、診ていただいている。異常や気付いたことは報告し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、定期的な面会や担当看護師からのお話を伺い、また、常に連絡が取れるよう情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族との話し合いや、状況に応じて希望に沿うようにしている。	事業所としての指針が出来ている。本人や家族の希望があれば、その都度体制を整え対応している。今迄に一人の入居者を看とった経験がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応は、連絡先などを含めすぐに対応できるよう、文章化してある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回消防署の方が来てくださり、避難訓練をしている。	日中の訓練は入居者も参加し、夜間を想定した訓練は職員のみで年2回消防署協力のもと行っている。隣接する小規模多機能の職員に協力を依頼している。地域の消防団にも参加して頂いているが、夜勤が1人ということから不安が多く、検討課題ではある。	スプリンクラーの年度内設置が決定している。夜間の迅速で安全な避難に向け、夜勤の勤務体制の検討等がすすめられることが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室を訪ねる時にはノック、声かけをし、プライバシーを守り、個々人に合った話し方、接し方を心がけている。	入浴や排泄については、同性介護の体制をとっている。入居者一人ひとりに合った話し言葉で会話をしたり、排泄等の声掛けは耳元でさりげなく対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お話を十分に聞き、できるだけ希望に添えるよう、また、納得していただけるように、わかりやすく話している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	趣味などを聞き、やりたい時間に編み物、折り紙などをしていただき、一日が楽しい時間になるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性の方は床屋さんを利用していただき、女性の方は美容師さんに訪問していただき、その方の好みに合わせた髪型にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	仕事ができる自信などを持っていただきたいと思い、ご利用者様の能力に応じ声かけし、野菜の皮むき、テーブル拭き、片付けなど職員と一緒にしている。	食事は職員も一緒に食べ、準備や片付けは入居者に手伝って頂いている。昔ながらの行事食と一緒に作ったり、誕生月の入居者と外食に出掛けて好みの食事を楽しんで頂いている。又、嫌いな物一覧表を作成し、好みに合った食材を使い、食事が楽しくなるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた食事を提供し、ご利用者様の状態によっては粥食や刻み食を提供している。また、水分を多めに取っていただけるよう心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後ご利用者様に声かけをし、その方々に合った口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各ご利用者様の排泄のパターンを把握し、声かけにてトイレ誘導を行っている。	個々の排泄パターンを把握し、小声で声掛けをして、トイレ誘導を行っている。失禁時にはさりげなく声掛けをして、居室にて対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄の記録のチェックを中心に飲食物の量や体操、レクリエーション、散歩を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は決まっているが、時間は各ご利用者様の希望やタイミングに合わせて配慮している。	週3回午後の時間を入浴時間とし、入浴したい時に入っている。個別風呂の他に大風呂もあり、2~3人で入る方もいる。入浴を拒む方には、声掛けやタイミングを配慮している。又、菖蒲湯やユズ湯等も楽しんで頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各ご利用者様が不安な気持ちにならないよう、ナースコールを設置し、いつでも対応できることを伝えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個人ファイルに入れ、また、一覧表が作成されており、職員全員が目を通せるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の対話を通じ、各ご利用者様の生活歴や趣味を知り、それを生かした楽しみごとを創意工夫している。 (カラオケ、編み物、洗濯物たたみ、縫物)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	一か月に一度の買い物デーと、お誕生の月の方の希望を伺い、外食の場所を決め、出かける機会を設けている。	毎朝散歩に出掛け、時々買物にも出掛けている。季節によっては昼食を庭で食べる等、気分を変える機会を作っている。公共施設に皆で出掛けたり、墓参りに職員が付き添うこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設でお金の管理はしているが、自立されているご利用者様には、ご自分で管理していただいている。買い物デーでお買い物をした時は、各自ご自分で支払いをしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	玄関に公衆電話を置き、自由にご利用できるようになっており、ご家族様からの電話も取り次ぎを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットの談話室には、ご利用者様が作った作品や絵などを飾っている。また、ホームの庭に花壇や畑があり、野菜やお花などを皆さんで育て、楽しんでいる。	居間には食卓テーブルやソファがゆったり置かれ、畳のコーナーもある。訪問時は兜が飾られ、季節感を取入れている。フロアには入居者が作った作品や職員手作りの物が飾られ、心地よく暮らせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室にはソファを置き、のんびりとテレビをご覧になり、広い庭にはベンチとテーブルが置かれ、くつろげる空間となっている。また、畳みのスペースがあり、休むことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所される時にご本人様の使い慣れた物を持って来ていただき、できるだけ自宅での生活の雰囲気を保つようにしている。	入居時に使い慣れた布団や大切な仏壇等を持ち込んで頂いている。又、その方に合った椅子や小物を置いたり、観葉植物、写真等を飾り、入居者が居心地よく、安心した暮らしが出来るよう工夫した居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行がスムーズにできるよう、廊下には手すりが設置され、談話室では自立歩行ができるよう、安全を考慮し、ソファやテーブルの配置を工夫している。		